

風はPLCから

一年目の大学院生活も半ばを過ぎ、自身の課題も次第に明らかになる中、二つの実践実習がありました。重点領域実践実習Ⅰ（10月15日～18日）や重点領域実践実習Ⅱ、特別支援重点領域実践実習Ⅱ（11月11日～15日）で充実した実習を行うことができました。

教職大学院通信第2号では、それぞれの実習の様子と院生の感想を紹介します。



【重点領域実践実習Ⅰ】

離島及びへき地教育に関する実践実習です。4日間の実習の中で、授業参観や授業実践を通じて、離島及びへき地での教育の特色等を体感しながら学びます。

本年度は出水市チームと、奄美大島チームに分かれて行いました。出水市立上場小学校・蕨島小学校・江内中学校と、奄美大島龍郷町立円小学校・龍郷小学校・龍北中学校にて実施されました。

【重点領域実践実習Ⅱ，特別支援重点領域実践実習Ⅱ】

特別支援教育に関する実践実習です。5日間の実習の中で、個別の指導計画や個別の教育支援計画等を踏まえた授業実践やユニバーサルデザインの観点から踏まえた特別支援教育について学びます。

本年度は鹿児島大学附属特別支援学校と鹿児島市立田上小学校の特別支援学級にて実施されました。

～現職・学部卒院生の声～

重点領域実践実習Ⅰ（出水市立上場小学校・蕨島小学校・江内中学校/龍郷町立円小学校・龍郷小学校・龍北中学校にて）

龍郷小での重点領域実践実習Ⅰを通して、困難を示す児童にデジタル教科書を用いて個別に説明する等、個に応じた指導の工夫を学ぶことができました。複式授業の実践では、個に応じた指導を行うことの難しさを実感し、改めて子供の実態把握の重要性を感じました。通常学級においても子供の実態を把握した上で適切な指導を行えるよう、今後の実習で意識して取り組みたいです。

学部新卒生より

重点領域実践実習Ⅰが始まる前、私はドキドキしていました。このドキドキは上手く出来ないのではと言う不安と新たな事を知れるという実習に対する期待感から来ていました。

実習を終えて、そのドキドキはどちらもの中していたので良い学びになった実習だと思います。

学部新卒生より



重点領域実践実習Ⅱ（鹿児島大学附属特別支援学校/鹿児島市立田上小学校の特別支援学級にて）

特別支援学校に行く機会、そして授業をする機会があることが教職大学院の魅力ではないだろうかと考えます。私は重点領域実践実習Ⅱでは、その子を理解するために、子供の姿からどれだけ考えを巡らせることができるかを体験することができました。何かあれば、院生同士、語り合うことができました。自分の変容をじっくりと感
じることができました。

現職教員より

5日間の実習を、一言で表すと「幸せな時間」でした。休み時間や授業、学校生活の中で目の前の子供と関わることを十分に味わうことができた時間。教員になり数十年の私が、初めて教員として子供たちの前に立ったころの心の高ぶりを思い出すとともに、教員の喜びを確認することができました。田上小学校の子どもたちと先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。

現職教員より

